



一般社団法人
エンドオブライフ・ケア協会
End-of-Life Care Association of Japan

2024年度 事業報告書

2024年4月1日～2025年3月31日

一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会

1. 2024年度事業方針(前年度事業計画より)
2. 実績概要
3. 分野別報告
 - (1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成
 - (2) 学びと実践を支えるコミュニティの形成・支援
 - (3) 「折れない心を育てるいのちの授業」プロジェクト
 - (4) 社会への発信(研究・出版・メディア・海外連携)
 - (5) 現役世代・将来世代への教育(学生・若年層との協働含む)
4. 法人運営
 - (1) 組織体制と協働
 - (2) デジタル・情報発信の強化
 - (3) 財務・資金調達・ガバナンス
5. 次年度に向けて

1. 2024年度事業方針（前年度事業計画より）

2024年度の事業計画の柱は、ユニバーサル・ホスピスマインドを学んだ人達が、それぞれのコミュニティに持ち帰り、伝え、定着する枠組みを構築することです。

孤独・孤立が社会課題として注目される中、国内外で様々な取り組みがなされています。エンドオブライフ・ケア協会は、生きづらさを抱えた人など、苦しむ人が少しでも穏やかな人生を送ることができるように、ホスピス医療で培ってきた対人援助のエッセンスを、誰もがわかりやすい言葉で伝える活動をしてきました。半径5mの距離にいる誰かの苦しみに気づき関わる担い手がそれぞれのコミュニティで広がることが、孤独・孤立の予防につながると考えています。

死や病気や介護に限らず、人生における様々な困難やそれに伴う心の苦しみは、誰にでも気軽に話せるものではなく、本人は自分ひとりで抱えていたり、周りは見過ごしたりしてしまいがちです。誰にも打ち明けられない苦しみを、たった一人でもわかってくれる人がいたならば、そしてその苦しみから自分にとって大切な支えに気づいたならば、真っ暗と感じていた世界に一つの灯りが灯る可能性があります。法人設立から10年目を迎え、全国で子どもからお年寄りまで、多くの方がユニバーサル・ホスピスマインドに触れて、変わる姿をたくさん伺って参りました。

課題としては、ユニバーサル・ホスピスマインドに触れた人達が、自分の日常に取り入れることに加えて、周囲の人達に伝えていくことです。どうしたら、自分や人の苦しみに気づくのか、気づいたときにどのような関わり方ができるのか、そのヒントは、日ごろから問いを持ち対話することにあると考えます。自分だけではなく、周囲の人達にそのヒントを伝えるための方策に、今年度は力を入れます。具体的には、研修や講演会を受講された人が、それぞれのコミュニティで伝えやすくするためのツールや、地域で活動されている諸団体との協働などです。

すでに多死時代を迎えた日本において、誰かを思いやるあたたかな心を持った人が増えていくことを願っています。

代表理事 小澤 竹俊

2. 実績概要

■ 2024年度の主な成果

- ・ エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座30回・受講者486名
- ・ 「折れない心を育てるいのちの授業」参加者1.3万名(累計8万人)
- ・ 新規認定者:ファシリテーター16名、いのちの授業講師46名
- ・ マンスリーサポーター91名増／寄付基盤を強化
- ・ Well-beingアワード GOLD受賞、海外カンファレンスでの発表

■ 来年度方針

- ・ 学びを日常に定着させる仕組みづくり
- ・ 講師・ファシリテーターのネットワーク強化・次世代育成
- ・ 認知症プログラムの展開
- ・ 研究推進・海外展開・財源の多様化(寄付・助成事業)

3. 分野別報告

(1)「人生の最終段階」に対応できる人材の育成

■ 取組概要と成果

- ・「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」を全国で30回開催・参加者486人(前年度22回・367人)。
- ・全国の認定ELCファシリテーターが小グループ進行や事例検討を担い、受講者の学びを支援。
- ・SOMPOケア「介護プライドマイスター」研修を継続実施(第4期)。
- ・同社介護プライドマイスターが各職場にUHMを実装していく上での伴走支援「ユニバーサル・ホスピスマインド実践ゼミ」を開始。
- ・各地のELCファシリテーターが他事業所の継続学習を担当するなど、コラボレーションが生まれた。



■ 課題と改善点

- ・医療・介護職以外への周知とアクセス改善が必要。
- ・忙しい現場職にとって参加のハードルが依然として高い。



■ 次年度に向けた示唆

- ・受講後に学びを継続できる仕組みを整えるため、認定制度およびコミュニティ支援のあり方を見直す。
- ・ファシリテーターと講師が学びの循環を支える基盤を整える。

3. 分野別報告

(1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成

■ 「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」(週末1日、平日夜間3日、インハウス開催)

開催日	場所/対象	形式	参加人数
2024/4/21	大阪	公開講座	6
2024/4/28	東京	公開講座	17
2024/5/12	オンライン	公開講座	20
2024/6/2	札幌	公開講座	13
2024/6/23	福岡	公開講座	34
2024/7/6	大阪	公開講座	7
2024/7/7	名古屋	公開講座	14
2024/7/10~24	オンライン	公開講座	13
2024/7/14	仙台	公開講座	18
2024/7/28	東京	公開講座	16
2024/8/11	オンライン	公開講座	15
2024/9/1	オンライン/SOMPOケア第4期	インハウス	36
2024/9/5~19	オンライン	公開講座	7
2024/9/22	札幌	公開講座	16
2024/10/6	東京	公開講座	22

開催日	場所/対象	形式	参加人数
2024/10/14	大阪/オンライン	公開講座	37
2024/10/27	鈴鹿	インハウス	27
2024/11/6~20	オンライン	公開講座	4
2024/11/23	飛騨高山	インハウス	33
2024/11/24	名古屋	公開講座	8
2024/12/1	オンライン	公開講座	27
2024/12/15	福岡	公開講座	24
2024/12/22	東京	公開講座	8
2025/1/9~23	オンライン	公開講座	3
2025/1/13	仙台	公開講座	12
2025/2/2	オンライン	公開講座	14
2025/2/15	名古屋	公開講座	10
2025/2/16	大阪	公開講座	5
2025/3/5~19	オンライン	公開講座	9
2025/3/16	東京	公開講座	11

3. 分野別報告

(2) 学びと実践を支えるコミュニティの形成・支援

■ 取組概要と成果

- 認定ELCファシリテーター16名を新規認定。
- ファシリテーターによる地域学習会を全国で開催(参加者7,859人)。
- 地域を超えたファシリテーター同士の交流が活発化し、コミュニティ形成が進んだ。
- 援助者養成基礎講座やイベントにファシリテーターとして参加することを通して、学びのアップデートにつながっている。

■ 課題と改善点

- 活動への参加しやすさと持続可能性。
- 対面・オンラインいずれも、ファシリテーションスキルを含めた継続学習。

■ 次年度に向けた示唆

- オンライン勉強会を活用した継続的な学びの循環を強化。
- 「基礎」+「応用」二層構造による資格制度再構築を進め、現場での実践支援を強化。

3. 分野別報告

(3)「折れない心を育てるいのちの授業」プロジェクト

■ 取組概要と成果

- ・ 講師トレーニングをオンラインで年3回開催(参加107名)、新規認定44名(累計259名)。
- ・ 認定講師による授業は全国13,311名が参加。
- ・ 全国の認定講師が13,311名に授業を実施。累計受講者78,000名を突破。
- ・ 大阪市は5年間で延べ100校1万名に出前授業を実施。
- ・ 沖縄・鹿児島・札幌など地域単位での自主展開が拡大。
- ・ 学校・学童・地域施設など多様な現場での授業実践が進み、地域発信が加速。
- ・ 月次の「講師学び合いの会」が定着し、相互支援の文化が育ちつつある。



■ 課題と改善点

- ・ 認定講師の活動支援(マッチング、教材拡充、広報強化)。
- ・ 財源確保と人材リソースの拡充。

■ 次年度に向けた示唆

- ・ 「地域展開モデル」を設計し、助成・寄付を活用した基盤拡充を図る。
- ・ 出前授業アプリ運用を本格化し、講師活動の支援体制を整える。



3. 分野別報告

(4) 社会への発信(学会発表・研究論文・メディア掲載等)

■ 取組概要と成果

- PHPCI2024にて活動成果を発表、論文を医系学会誌に掲載。
- 書籍『あなたにもできるスピリチュアルケア』を出版。
- Well-beingアワードGOLD受賞。AGEING ASIAファイナリスト選出。
- 各地のメディアで協会活動が多数紹介された。

■ 課題と改善点

- 「子ども」「地域」などテーマ領域の研究体制。
- 学術的エビデンスと現場実践の橋渡しを担う専門人材の確保。

■ 次年度に向けた示唆

- 研究・教育・実践の3領域を連携させた「UHMラボ」体制を整備。
- 学術機関・行政・企業と協働し、データに基づく社会的発信を強化する。



学会・研究会等

- ・小澤 竹俊. アドバンス・ケア・プランニング(ACP)～共に、未来を拓く～, 第22回日本ヨギ療法学会 研究総会 招待講演, 2024年5月.
- ・小澤 竹俊. 専攻医を対象としたスピリチュアルケア研修: ロールプレイ患者役による研修評価, 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 一般演題2, 2024年6月.
- ・小澤 竹俊. プライマリ・ヘルス・ケアで求められるスピリチュアルケアのヒント～ユニバーサル・ホスピスマインドをすべての人生のそばに～, 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 教育講演7, 2024年6月.
- ・小澤 竹俊. 「多職種を対象とした看取り期のコミュニケーション研修会」, 第29回日本緩和医療学会学術大会 ポスター発表, 2024年6月.
- ・小澤 竹俊. 多様性のある地域医療実習で伝えたいこと～在宅緩和ケアを専門とするクリニックの立場として～, 第56回日本医学教育学会大会 ポスター発表, 2024年8月.
- ・小澤 竹俊. ACPに必要なコミュニケーションスキルを磨くには, 日本アドバンス・ケア・プランニング研究会 第9回年次大会 特別教育講演, 2024年9月.
- ・小澤 竹俊. ユニバーサル・ホスピスマインドをすべての人生のそばに～エンドオブライフ・ケア協会9年間の活動～, 第47回日本死の臨床研究会年次大会 ポスター発表, 2024年10月.
- ・小澤 竹俊. 地域共生社会の実現にむけて～ユニバーサル・ホスピスマインドをすべての人生のそばに～, NPO地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 第3回全国の集い 特別講演, 2024年11月.
- ・久保田 千代美・宮崎 響. 「誰一人取り残さない」コンパッション・コミュニティ～ユニバーサル・ホスピスマインドの実装 インタラクティブセッション(オンデマンド), 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2024年6月.
- ・久保田 千代美. 教育講演「プライマリ・ヘルス・ケアで求められるスピリチュアルケアのヒント」座長, 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2024年6月.
- ・久保田 千代美. 「看取り期のコミュニケーション～意思疎通が難しくなった人へのエンドオブライフ・ケア～」, 日本プライマリ・ケア連合学会第21回 秋季生涯教育セミナー, 2024年9月.
- ・千田 恵子. Compassionate Communities for All from Children to the Elderly throughout Japan, PHPCI2024ポスター発表, 2024年10月.
- ・千田 恵子. Lessons of Life for School Children: What We can do to Increase Compassionate Individuals and Communities, PHPCI2024一般演題, 2024年10月.

メディア出演・掲載

- ・『大阪保険医雑誌』(大阪府保険医協会)2024年3月号
- ・『小児内科』(東京医学社)第56巻 第3号<2024年3月号>
- ・『日本労協新聞』
- ・『沖縄タイムス』シェアハウス型在宅ホスピス、今夏オープン予定
- ・ツクルゼ、ミライ! 行動系ウェブマガジン[DRIVE]
- ・“弱さ”と共に生きる『佼成新聞デジタル』
- ・『琉球新報』論壇「超高齢・多死時代のホスピスマインド」
- ・『NHK 静岡』富士で講演会 悩みや苦しみを抱える人に寄り添う方法は?
- ・『富士ニュース』相互ケアの輪広げる 自尊感情を育む講演・学習会
- ・沖縄市コミュニティラジオ局『FMコザ』 ゆいまーる・ホスピスマインド
- ・『朝日新聞』朝刊社会面:子どもが伝える「いのちの授業」生きづらさ経験、次は自分が講師に
- ・おきなわHOT eye 「ひとつ屋根の下で自由な最期を」
- ・東洋経済ONLINE 「死が目前に迫った人」の話に、どう耳を傾けるか 相手の気持ちを100%理解できなくてもいい
- ・LIFE HACKER【毎日書評】「きょうが人生最後の日だったら」と自問してみると、本当に大切なものに気づける
- ・『静岡新聞』苦しみの中でも穏やかに 菊川で「折れない心育てる授業」
- ・中頓別学園開校準備だより
- ・『北海道新聞』留萌宗谷版『折れない心を育てるいのちの授業』
- ・『月刊保険診療』(医学通信社)
- ・沖縄市コミュニティラジオ局『FMコザ』 ゆいまーる・ホスピスマインド
- ・『沖縄タイムス』「苦しい時 仲間呼ぼう」うるまの高等特支 金澤さん いのちの授業
- ・『NHK沖縄放送局』きんくる～沖縄金曜クルーズ～
- ・ホスピス特化型メディア “解決が難しい苦しみに向き合い、誰もが支え合える社会の実現”
- ・『伊勢新聞』最期まで過ごせる社会へ 亀山で医師会「市民講座」三重
- ・Yahooニュース掲載:埼玉県入間市の高校で「折れない心を育てるいのちの授業」
- ・『毎日新聞』コラム「滝野 隆浩の掃苔記」:「まねしたい」は広がる
- ・『沖縄タイムス』『琉球放送 RBC NEWS』高齢者にスマホ設定指南いきがいLABOがカフェ
- ・『朝日新聞』朝刊:WELL-BEING ACTION すべての人が尊重される「幸せ」な社会をめざして
- ・札幌市手稲区役所ホームページ「ていねっていいね」:子育てサロン「いちばん星」



朝日新聞朝刊社会面
#withyou 2024年8月22日

3. 分野別報告

(5) 現役世代・将来世代への教育(学生・若年層との協働含む)

■ 実施内容

- ・ 医療・介護職に限らず、多様な分野の参加者が対話に参加。
- ・ 月例イベントを12回開催(745人参加)。
- ・ 沖縄の医学生がプライマリケア連合学会で発表。
- ・ 医療系の学生同士の交流が地域を超えて生まれつつある。

■ 課題と改善点

- ・ イベント企画・運営の属人化、負担の集中。
- ・ 医学教育・学校連携を継続的に担う体制づくり。

■ 次年度に向けた示唆

- ・ ファシリテーター制度と連携し、若手世代の育成ラインを明確化。
- ・ 子ども若者支援に関わるNPOとの連携を視野に、若手リーダーの育成を推進。



ユニバーサルホスピスマインドをもとに最強のチームを作ろう

- ユニバーサル・ホスピスマインドをもとに最強のチームを作ろう（第200回記念）
- 高齢化するアジア諸国に見るユニバーサル・ホスピスマインド（第201回 佐々木淳さん）
- いのちの授業～認知症とともに生きる～（第202回 浜田努さん）
- マザーテレサ「死を待つ人の家」で学んだこと：誰からも必要とされていないと感じていた人が生まれてきてよかったと思えるには（第203回 片柳弘史さん）
- ACPの光と影 ～ 本人と家族と援助者が穏やかに過ごせるために私にできること ～（第204回 小澤竹俊）
- 誰もが自分の健康を決める主人公に～多様性の国オランダから学ぶポジティブヘルスとコミュニケーション～（第205回：山田拓さん）
- いのちに驚く対話～死に直面すると、私たちは何を語り合えるのか～（第206回：岡田圭さん）
- ふれあう感覚から”わたし”と”わたしたち”をつなぐ～ウェルビーイングを作りあう技術と考え方（第207回：渡邊淳司さん）
- 今年一年をふりかえり 未来に向けて夢を語る会（第208回）
- 難病者の働きやすい社会は誰もが働きやすい社会（第209回：重光喬之さん）
- 在宅医療の質を考える（第210回：小野沢 滋さん）
- 「ひとり死」時代の人生のしまい方 ～今を豊かに生きるために～（第211回：滝野隆浩さん）

4. 法人運営

(1)組織体制と協働

2024年度は、設立10周年を前に、ユニバーサル・ホスピスマインドの理念を支える組織基盤の強化に重点を置いた。企業・NP0・行政との協働を通じたマーケティング・広報・ガバナンス体制の整備を進め、持続的かつ透明性の高い法人運営を目指した。

■ 取組概要と成果

- ・ 住友商事株式会社のプロボノ支援。企業へのマーケティング施策立案に関わる3か月の伴走支援を経て、有志の継続により同社内で研修を実施。
- ・ 日本ファンドレイジング協会「ファンドレイジング・スクール」リアルケーススタディに選定され、スクール生から7つの戦略提案を受領。同スクール参加者2名が継続的にプロボノ参画し、10周年特設サイト制作や周年行事企画運営を支援。
- ・ コングラント株式会社によるマンスリー寄付伴走支援。

■ 課題と改善点

- ・ 外部との協働そのものを継続的に推進する人材・体制が十分ではない。

■ 次年度に向けた示唆

- ・ 行政・企業・NP0連携の拡大に向けて、協働を担う中核人材の育成と体制整備を進める。



4. 法人運営 (2) デジタル・情報発信の強化

■ 取組概要と成果

- 設立10周年特設サイトを新設し、活動の歩み・動画・インタビューを掲載。
- actcoinデイリーアクションをWell-beingカテゴリとして設定、10周年特設サイトに実装。小さな行動の可視化・習慣化を試行。
- SNS (Facebook・Instagram) での発信を継続。

■ 課題と改善点

- SNS運用が個人依存的で、更新ルール・運用フローが未整備。
- コンテンツ制作と情報整理の負担が集中しやすい。

■ 次年度に向けた示唆

- SNS運用体制を見直し、年間計画と更新フローを明文化。
- 自動化・一元化を進め、情報発信と内部業務を統合管理。



4. 法人運営

(3)財務・資金調達・ガバナンス

■ 取組概要と成果

- ・ コングラント伴走支援により初の独自寄付キャンペーンを実施（新規マンスリーサポーター91名）。
- ・ グッドギビングマーク認証取得の準備。

■ 課題と改善点

- ・ 寄付施策について、活動に直接関わりをいただいている方に限らず、より幅広くご賛同を得ていくことが今後の課題。
- ・ 事業収入や寄付に限らず、助成事業も含め、財源をバランスさせていく。
- ・ ファンドレイジングを通じて関係性を維持・構築していくうえで、戦略ならびに担当者等リソースの確保が不可欠。

■ 次年度に向けた示唆

- ・ ファンドレイジング・スクールを通じて得られた提案や経験を活かして、現実的な施策を遂行していく。
- ・ グッドガバナンス認証に続き、グッドギビングマーク認証の取得を通じ、信頼性の高い組織運営を行う。

誰もが「生きてきてよかった」と思えるように。「ユニバーサル・ホスピスマインド」を全ての世代に届けたい



5. 次年度に向けて

2024年度は、設立10周年を前に、ユニバーサル・ホスピスマインド（UHM）の理念を社会に広げる基盤を整えた一年でした。次年度は、理念の実装をさらに進めるために、多様な協働・次世代参画・組織基盤の強化・透明性の確保を重点に取り組みます。

- ・ 企業・自治体・NPOなど多様なパートナーとの協働を深め、実践モデルを拡充する。
- ・ 若い世代が主体的に参画する仕組みを整え、次世代への継承を進める。
- ・ 事務局体制の強化とデジタル基盤の整備を通じて、持続的な運営体制を構築する。
- ・ 助成・寄付の拡充と認証制度の更新を通じ、財務の安定と透明性を高める。

これらを通じて、「理念を理解する（learn）」から「理念を体現する（live）」社会実装フェーズへと歩みを進めていきます。

0 歳から 100 歳まで、誰もがどこでも平等に、 答えのないこのころの問題に向き合えるように。

一部の人が一部の人にしか行えない専門的なケアではなく、
住んでいる場所、所得、年齢にかかわらず、
誰もが、大切な人や自分のこのころのケアができるように。

わたしたちは「ユニバーサル・ホスピスマインド」を広めています。

それは、死と向き合うホスピスの現場で培われた、穏やかなこのころのはぐくみ方。

たとえ死を目の前にしても、穏やかでいられる。
そんなユニバーサル・ホスピスマインドを
人生のあらゆる場面で持つことができれば。

学校、子育て、介護、仕事、人間関係。
答えのない困難への、感じ方が変わる。受け取り方が変わる。
それは、大切な人と自分が、
限られた時間でも自分らしく過ごすための実践的な方法。



専門的なこのころのケアを、すべての人生のそばに。



一般社団法人 エンドオブライフ・ケア協会
End-of-Life Care Association of Japan